

にぎわいづくりの拠点

特色を生かした活気あるまちに

「元日野サンプラザ有効活用に関する提言」



▲景山町長へ提言書を手渡す中西委員長と小谷澄男委員（右）

▶まちの活性化の拠点として期待のかかる「元日野サンプラザ」



6月14日、元日野サンプラザ有効活用検討委員会（中西康夫委員長）から、景山町長へ「元日野サンプラザ有効活用に関する提言」が提出されました。

同委員会は、町が地方創生の柱の一つとして取得を目的としている、遊休施設「元日野サンプラザ（根雨）」の活用方法について、昨年度から5回の委員会を開き検討を重ねてきました。昨年12月に町民へ行った意見

募集（パブリックコメント）や各委員から出た多くの意見、さまざまな活用策を集約しました。

提言には、町のにぎわいづくりを目的とした交流拠点、貸事務所、セミナーコーナーなど、施設の活用案を盛り込んだ内容が提案されています。

町では、この提言を参考に、これからの元日野サンプラザの有効活用について検討していきます。

元日野サンプラザ有効活用に関する提言（抜粋）

委員会から町へ提言された内容を紹介します。

1. 有効活用の基本的な考え方

- 日野町の地方創生に資する拠点施設として、にぎわいづくりや交流人口の拡大による地域経済の活性化および雇用創出につながるため、町外から人を呼び込むことができる仕掛けや魅力的な店舗などの誘致が不可欠である。
- 建物が約1,800㎡とかなり広いことから、施設をより有効かつ効率的に運営するため、3～4分割して複数の機能を有する複合施設として整備することが望ましい。
- 住民ニーズがある子育て支援や健康づくりに加え、アートや住民生活の利便性向上に資する機能を加えるよう配慮いただきたい。
- 大規模な地震など災害発生時に備え、一時的な避難所、ボランティアセンター、各地から送られてくる生活支援物資などの分け、保管を行う施設や備蓄倉庫としての活用についても視野に入れておくことが望ましい。
- 施設の運営については、基本的に民間の力やノウハウを活用することとし、一定の組織や団体に賃貸または運営委託するなど、それぞれの機能に応じて最適な運営方法を検討すること。

2. 具体的な活用の方策

上記1の「有効活用の基本的な考え方」を基にした具体的な活用の方策として、以下のような活用が考えられる。施設全体を大きく3つのゾーンに区切り、多機能複合施設として整備する。

- (1) にぎわい・交流ゾーン ▶①宝くじ売り場、縁起物の製作体験・販売コーナー ②商業店舗・休憩コーナー
③特産品展示・販売コーナー ④遊具コーナー ⑤トレーニングルーム

年間20万人を超える観光客が訪れる金持神社の集客力を生かすため、これまで観光客から要望が多かった宝くじの販売を行う。金持神社のレプリカ設置や門前横丁のような内装を施して、神社ゆかりの縁起物の製作体験や販売を行うとともに、町外から集客が期待できる店舗を誘致し、賑わいを創出する。

道の駅的な機能として、休憩コーナーや公衆トイレを設置し、観光情報や移住定住など、町の各種施策を情報提供するとともに、農産物など町の特産品販売や日野高ショップの臨時的な開設を検討する。

子育て支援の一環として、保育所及びおひさまひろばの休業時や買い物の前後に、親子連れで気軽に訪れ、室内で幼児を安心して遊ばせる遊具コーナーを設置する。また、超高齢化社会において大きな課題となっている住民の健康づくりの拠点として、特に中高齢層でニーズの高いトレーニングルームを設置して健康教室を開設する。

- (2) オフィスゾーン ▶サテライトオフィスなどの貸事務所

移住定住を促進するため、働く場の確保、雇用創出につながるサテライトオフィスなどを誘致する貸事務所スペースを整備する。その際、事業所誘致の前提条件となるIT環境の改善を早急に進める必要がある。

- (3) セレモニーゾーン ▶セレモニーコーナー（葬祭施設）

町内になく、近年、町民の求める声が高まっている小規模な葬祭や法事ができる葬祭施設を設置する。にぎわい・交流ゾーンなど多機能ゾーンとの併設による影響を最小化するため、ほかの機能と完全分離する壁を設置するとともに、建物全体の後方に配置するなどの対応が必要である。



菅福60年ぶりの敬老会でできずな深まる

とっとり共生の里代満しろみで敬老会



巧みな手品と話術に拍手喝采

「菅福地区の元気をまち全体に広げたい」と町長。約60年ぶりの開催となった敬老会では、住民同士などのきずなが深まっただけでなく、地域の元気がまち全体へ広がるきっかけとなりそうです。



さまざまな催しに笑顔や歓声が上がる

6月19日、菅福地区連合会（池座仁会長）と伯耆地区郵便局長会（口田剛史会長）が連携して取り組む「とっとり共生の里」による、都合山たたら保存活動と代満で敬老会が行われました。
保存活動では、かつて、たたら製鉄で名をはせた近藤家が操業していた「都合山たたら」から鉄を運んだ「たたら街道」を整備。菅福地区の住民や同郵便局長会の会員らが、都合山たたら側と街道側の二手に分かれ、道の草刈りや枯れ枝、倒木の除去などの作業を行いました。
作業後には、菅福社会体育館で、代満で敬老会が開かれました。菅福地区では約60年ぶりの開催となった敬老会には、地元住民や同郵便局長会などから約120人が参加。会場では、山野草の天ぷらや煮物、漬物などが振る舞われ、参加者は普段味わえない里山の恵みを堪能しました。そのほか、手品や民謡、カラオケ大会も行われ、笑い声や歓声が絶えず大いに盛り上がりました。

自分の考えを積極的に発信するきっかけに

スカリー悦子さんが小学校で英語授業



「楽しく英語を学んでほしい」とスカリーさん

国際社会を生きる子どもたちに、外国語の学習を通し、自分の考えを表現する力と態度を育てようと、6月24日、町内の小学校で前九州大学教授のスカリー悦子さん（島根県益田市）を招き、英語授業が行われました。
スカリーさんは、自身の渡米生活や大学での経験を活かし、中山間地の子どもたちの英語指導などに力を注いでいます。
当日は、小学6年生を対象に、英語を使って自己紹介や地域の地図を作成。自己紹介では、全員が好きな食べ物や将来の夢などについて発表し盛り上がりました。スカリーさんの身ぶり手ぶりのユニークな指導に、児童らは笑顔を見せながら授業を楽しんでいました。



笑顔でお互いに自己紹介

スカリーさんは、アメリカでの生活を振り返りながら「貧乏だったけど、心は貧しくなかった。子どもたちも一度、日野町を出て世界を知り、再び帰ってきてほしい」と話し、「英語は世界で生きるための自分の武器。自信を持って自分から行動できるようにになってほしい」と語りかけていました。児童らも「英語の自己紹介は初めてだったけど、どんどん覚えていきたい」「英語の大切さを知り、将来に役立てたい」と話しました。